

グループ名 ・代表者名	原子力資料情報室 伴 英幸	助成金額	30万円
連絡先など	03-3357-3800 cnic@nifty.com		
助成のテーマ	ユーストリームの活用による原子力に関する科学的情報の提供		

【調査研究の概要】

- ・視覚ツールを活用して市民サイドからの客観的情報を配信する
- ・原子力資料情報室内での配信体制の確立
- ・継続的な配信（週1回程度）

【調査研究の経過】

2012年度のUstream配信は54回、平均して週1回程度の頻度で配信できた。これを分野別に分類したのが右表である。

分類	配信回数
福島原発事故関連	27
各地の原発状況	6
原子力政策・脱原発	19
その他	2
合計	54

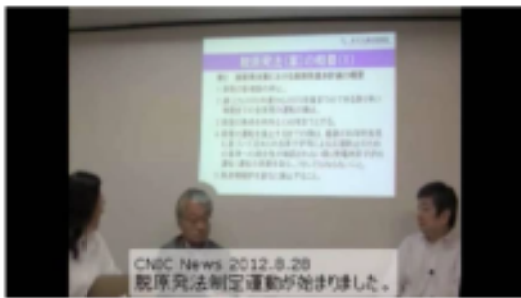
【今後の展望など】

- ・福島をはじめとして地元の声を伝える

会計報告書の概要（金額単位：円）			充当した資金の内訳		
支出費目	内 訳	支出金額	高木基金の 助成金を充当	他の助成金 等を充当	自己資金
旅費	主として都内移動のための交通費	50,650	50,000		650
資料費					
機材・備品費	ビデオカメラ、マイク、編集ソフトなど	146,068			146,068
会議費					
印刷費					
協力者謝礼など	出演者謝金および交通費	264,830	250,000		14,830
外部委託費					
その他	人件費（アルバイト料）	193,000			193,000
合 計		654,548	300,000		354,548

参考文献（ウェブサイトや書籍、成果物など）

- ・ <http://www.cnic.jp/library/moviesidx>
- ・ <http://www.ustream.tv/new/search?q=CNIC&type=all>



Ustreamの活用による原子力に関する科学的情報の提供

原子力資料情報室 作英幸



背景と目標

背景

- ▶ 画像や動画などの視覚ツールの活用傾向が強まっている
- ▶ 福島第一原発事故を契機として情報発信の速報性が求められ、Ustreamを始めた
- ▶ 活用ノウハウの蓄積

目標

- ▶ 市民サイドからの客観的情報の発信
- ▶ 発信体制の確立
- ▶ 継続的な配信(週1回程度)



原子力資料情報室

2

配信と内容

配信はUstream.tvと原子力資料情報室のホームページ

内容:

- ① 福島原発事故の現状、影響等に関するもの
- ② 各地の原発状況
- ③ 原子力政策の変化や脱原発の訴え
- ④ その他

分類	配信回数
福島原発事故関連	27
各地の原発状況	6
原子力政策・脱原発	19
その他	2
合計	54



原子力資料情報室

3



原子力資料情報室

4

配信結果 (視聴回数)

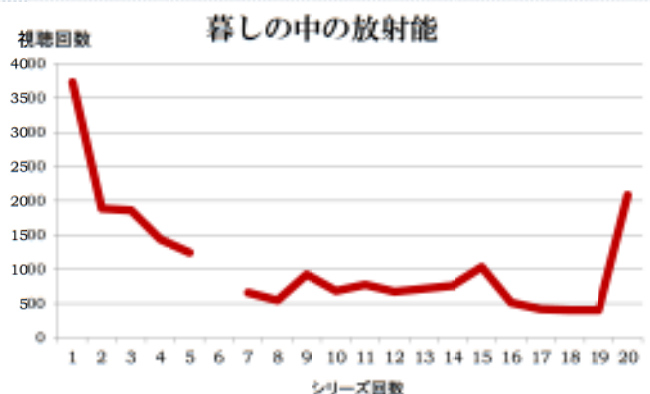
分類	内容	視聴回数
ENIC News	大飯原発再稼働問題について ENIC 共同代表 山口幸夫	2,526
ENIC News	「福島は今」 第2回 ゲスト 森岡かづえさん	4,682
公開研究会	第28回 脱原発のエネルギー政策へ	2,446
ENIC News	国会事故調報告『全交流電源喪失は果たして津波によるものか?』	1,679
ENIC News	国会事故調『福島第一原発1号機で何が起こったのか—事故経過の発掘を探る—』	3,327
政府委員会等	第21回 ストレステストに係る意見聴取会	124
ENIC News	「脱原発法制化運動がはじまりました。」	2,493
ENIC News	「大間原発問題について」	2,533
公開研究会	第30回 『高レベル放射性廃棄物 地層処分は可能か?日本学術会議の原子力委員会への回答をめぐって?』	694
ENIC News	国会事故調報告『経路量放射線リスクはなぜわからないとされているのか—ICRP委員会勧告との関連において—』	2,055
ENIC News	福島第一原発事故の汚染・除染・被曝について	1,001
公開研究会	第31回 「原子力防災見直しの課題」	852



原子力資料情報室

5

視聴数



原子力資料情報室

6

会計報告

支出費目	明細・計算根拠など	助成決定時の支出計画(*1)	実際の支出金額
旅費・滞在費	交通費(主として都内)	100,000	50,650
機材・備品費	主な機材(ビデオカメラ、マイク、編集ソフトなど)		146,068
協力者謝礼等	出演者謝金(交通費)	200,000	264,830
人件費	アルバイト		193,000
	合計金額	300,000	654,548

総括と今後

- ・週1回程度の目標は達成できた
- ・配信体制が確立でした(人、機材、ソフトなど)

視聴回数から見えてくるもの

- ・現地の声に強い関心
- ・脱原発へ向けた呼びかけなどにも強い関心
- ・政府委員会の視聴者は少ない(他でも配信している)

今後の方向

- ・福島の声や各原発現地の声を伝えることに力点を置きたい